

原告意見陳述 和訳

私の名前はウィルフレッド・ラモスです。通称はフレッド・ラモスです。私は 2006 年 4 月から 2017 年 7 月までインタラックおよびそのグループ会社で、神奈川県
の公立学校で英語を教える A L T として勤務しました。その間、私は誠実かつ忠実に
働きました。生徒や教師、学校と共に行った仕事を誇りに思っています。私は日本
で教育者として意味のある仕事をしていると信じていました。

雇用期間を通して、私の契約や実際の業務は短期間で単発の仕事ではなく、私は月
曜から金曜の通常の学校の授業時間に学校で働いていました。授業の準備をし、授
業を教え、教師や生徒らと協力し、学校のスケジュール通りに学校に留まることが
求められていました。私は自分自身を、通常の教育実務者として働いていると理解
していました。

しかし、この現実にもかかわらず、雇用中に適切な社会保険制度に加入していま
せんでした。繰り返し聞かされた説明は、私の週労働時間が 29.5 時間とされてい
るということです。しかし、その数字は実際に私が行った仕事の現実を反映してい
ません。学校にいないてはならない時間や、果たした責任、会社や学校が私に頼っ
ていた状況を反映していません。

長年にわたり、私は忠誠心と信頼をもって働き続けました。雇用主との対立は望み
ませんでした。問題があれば公平に対処できると信じていました。しかし、退職年
齢に達した今、その影響が非常に現実的なものとなりました。これは抽象的な問題
ではありません。長年日本で生活を築いてきたのに、社会保険に適切に加入してい
なかったために退職後の生活保障が減っていることに、非常にショックを受けてい
ます。

また、この事件は私だけの問題ではないと信じています。実情と異なる契約のもと
で長年学校で働いてきた外国人、日本人の教育従事者がたくさんいます。雇用主が
契約には架空の数字を書き込みながら、通常の学校教員の職務を求めることによ
って、労働者が年金の権利を失うべきではありません。

裁判所には、契約に記載された数字だけでなく、私の雇用の実態を検討するよう丁
重にお願い申し上げます。私は長年真剣に働いてきましたが、雇用主が私を適切に
加入させなかったことによる損害を、私が負うべきではないと信じています。

最後に、私の弁護士である定岡氏と村角氏、ゼネラルユニオン、そして私を支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。皆様のご支援は私にとって大きな意味がありました。

ありがとうございます。

ウィルフレッド・ラモス